

平成30年度 第1回 高槻市中心市街地活性化協議会 会議録

日 時：平成31年1月17日（火）午後2時～3時30分
場 所：高槻商工会議所 4階 大会議室
出席者：協議会会員22名
事務局：高槻商工会議所、高槻都市開発株式会社
市担当課：高槻市産業振興課

1 開 会

(1) 定足数の報告

会員総数26名中出席者22名で、規約第7条第4項により定められた定足数（過半数13名）を満たしている旨が報告され、「平成30年度 第1回高槻市中心市街地活性化協議会」が有効に成立していることが確認された。

(2) 会長挨拶

高槻市中心市街地活性化協議会 会長 金田忠行 氏

(3) 高槻市副市長挨拶

高槻市 副市長 石下誠造 氏

2 構成員の変更について

事務局説明

「西武高槻店」様に関して、平成29年10月1日より運営会社が「株式会社そごう・西武」から「株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメント」に変わっているが、これまで協議会が開催されておらず構成員名簿の更新が行われていなかったことから、本日の開催をもって名簿の更新を行う。

3 高槻市中心市街地活性化基本計画記載事業の進捗について

高槻市から中心市街地活性化基本計画記載事業の平成29年度における進捗状況について報告があった。

高槻市

平成29年6月に新たな基本計画となる「2期計画」を策定し、平成29年7月から平成35年3月の5年9か月を計画期間として内閣府の認定を受けた。

本日は初年度9か月分について報告を行うが、多くの事業が本格実施にいたってお

らず、主な取組の進捗についての報告とさせていただきます。

まず、新たな集客拠点として、平成33年の全面開園に向けて中心市街地東部の集客拠点である安満遺跡公園の整備を進めている。公園の西側は全面開園に先立つ平成31年3月23日の1次開園に向けた工事が進められており、まもなくの開園を予定している。1次開園のエリアでは、公園のエントランスやパークセンター、全天候型屋内施設などの整備が進められ、全天候型屋内施設では施設を最大限に有効活用できるよう管理運営を行う事業者を募集し、民間のノウハウやアイデアを取り入れた運営を行う予定。

区域としては公園の外になるが、子育て支援から人材の育成・確保までを包括して行う子育て拠点として「高槻子ども未来館」が公園と一体的に整備され、安満遺跡公園の1次開園とほぼ同時期となる平成31年4月の開設に向けて工事が進められている。

エリア南部の集客拠点、新文化施設の建設に関しては、城跡公園野球場や多目的広場など移転先の施設を撤去して埋蔵文化財の確認調査を実施。

その他の拠点整備として、芥川町の市有地を活用し、コンベンション機能を有したホテルの建設及び運営を行う事業者を募集。「株式会社アベストコーポレーション」を選定した。また、ホテルの事業内容が経済産業省の所管する「特定民間中心市街地経済活力向上事業」に該当したことから、平成30年4月16日に経済産業大臣の認定を得た。

ソフト面の取組としては、高槻商工会議所と共催で「たかつき創業塾」を開催。創業塾卒業後に、平成29年度は新たに5名が創業し、その内2名が中心市街地内での創業となった。また、補助制度による創業支援を行い、飲食店3店舗が新規創業。その内1店舗が中心市街地内にオープン。

集客イベントでは、商店街による夏祭りや、市と商工会議所が共催した「たかつき産業フェスタ」、民間の有志メンバーが開催した「たかつきアート博覧会」など、年間を通じて、多様な実施主体が中心市街地エリアで様々な集客イベントを開催。

平成29年度の報告は計画認定から9か月間の進捗のため、資料の通り計画記載事項のほとんどが着手段階となっている。また、平成30年4月以降に着手する事業は「未着手」の扱いとなっている。平成34年度末までに、全ての事業が完了できるよう、民間事業者とも連携して計画を推進していく。

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

(1) 阪急高槻南駅前通り商業振興会

資料によると安満遺跡の整備は市が実施主体とのことだが、あれだけの広さの土地を市が取得して整備するのは困難ではないか。実際にはURが関与しているとのことなので土地は国が取得しているということか。

高槻市

土地は市が購入している。防災公園街区整備事業として国から補助が出ており、市とURで協定を結んで事業を進めている。

4 中心市街地活性化事業の実施について

高槻市から中心市街地活性化活性化事業について説明があった。

高槻市

協議会の今後の取組みとして、計画記載事業の「(仮称) たかつき活性化塾」と「各種イベントと商業の連動促進」を実施したいと考えている。

「(仮称) たかつき活性化塾」は、北西エリア・芥川地区でイベントや集客に向けた取組を行い、「1期計画」で増加が見られた北東地区人口の北西エリアへの回遊を見込む。その取組結果を受け、平成32年度には課題や集客方法等の整理、検討を行い、平成33年度から平成34年度にかけて南エリア・阪急南側にて「各種イベントと商業の連動促進」に繋げていく。

これら2つの事業の主体はそれぞれの地域の商店街となるが、その周辺地域を取り込み、中心市街地の北西エリア、南エリアにおける面的な回遊性、にぎわいの創出に繋げて行きたいと考えている。

事業の実施にあたっては、取組を実施するエリアの商店街が中心となって話し合いを行うことで課題を整理し、エリアのにぎわい創出に取り組みたいと考えており、話し合いが円滑に行われ、その議論の結果が事業として具体化するためのアドバイザーとして、専門のコンサルタントの支援を依頼したいと考えている。

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

(1) 高槻城北通事業協同組合

コンサルタントを入れて地域でイベントを実施するとのことだが、イベントの内容や手法はコンサルタントの指示に従って組み立てるのか。

高槻市

地域の関係者同士が話し合い、地域の現状や課題、今後の賑わいづくりの方向性を整理しながらイベントの形にしていく予定。コンサルタントは意見の整理やイベントの実施などを支援する立場として参加し、イベントの事例や雛形を提示することはあるかもしれないが、イベントを組み立てるのは地域と考えている。

(2) 高槻城北通事業協同組合

城北通商店街では「食の文化祭」というイベントを行っているが、客層は市民に限られている印象がある。今後に向けて市外から集客できるようなイベントを検討しており、インバウンドも含めて外部から人を呼び込める取組を進めたいと考えているが、何か情報や意見があれば賜りたい。

高槻商工会議所（会長）

インバウンドについては企業も苦勞しているが、チャレンジしていくことが大切である。協議会としても準備を進めていく必要はあるが、一気にあれもこれもと進めることは難しいので、出来ることからひとつずつ進めるための枠組みを作っていくことが大事になるのではないかと。

京阪バス株式会社

バス客に関してはインバウンドが増えている。バスは鉄道よりも身軽な交通機関であり、比較的容易に空港や高速道路と結ぶ経路を新たに設けることができ、例えば、平成30年3月には京都駅発、名神高槻バス停経由の有馬温泉行き路線をスタートした。現在も松井山手から名神高槻を経由して伊丹空港を繋ぐ路線を検討しており、地域の賛同や協力があれば進めていきたい。

5 高槻市中心市街地活性化基本計画記載事項の変更について

高槻市から高槻市中心市街地活性化基本計画記載事項の変更について説明があった。

高槻市

変更内容としては、「5-1「(仮称)高槻子ども未来館」の整備事業」について、平成29年度に計画未記載であった「子ども・子育て支援整備交付金」を活用したことから、「支援措置名 子ども・子育て支援整備交付金」を追記するもの。合わせて、施設名が確定したことから事業名の「(仮称)」を削除する旨の修正を行う。

次に、「7-40 市有地を活用したホテル等整備事業」について、こちらは当初より「地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）」の活用を予定していたが、平成31年度から補助制度が改正され、名称が「地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地事業）」に変更となることから、計画記載上の名称も修正するもの。

その他、同程度の軽微な変更について、内閣府と調整を進め、変更申請手続きを進めて行く。

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

(1) 阪急高槻南駅前通り商業振興会

伏見柳谷高槻線の整備箇所は八丁畷交差点付近でよいか。あそこの渋滞解消は長い期間検討され、元々は立体交差にするという計画だった。結果として国道を含めて拡幅で対処したようだが、元の計画から変更があったということなので、周辺地域の整備も柔軟に執り行って欲しい。

6 各会員からの情報提供

事務局説明

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

(1) 高槻市

先ほどの進捗報告でもお伝えしたが、「安満遺跡公園」が3月23日に1次開園する。本日の追加資料「オープンたかつき」にも掲載しているが、同日にオープニングイベントの実施を予定しているので、お時間が許せば是非ご参加いただきたい。

(2) 株式会社シティライフ NEW

大阪府万博誘致推進室への取材で、近隣地域における万博関連の経済効果を質問したところ、「何もしなければ何もない」旨の回答があり、京都からは既に接触があったが、北摂からの動きはないとのこと。

万博に絡んで観光客を取り込んでいくためには海外への発信を検討する必要がある。例えば、先日「ラーメン Expo」というイベントを行った際に大阪観光局がパンフレットを英訳して発信したところ、例年の倍以上の外国人を集客できた。これから北摂で広域のインバウンドに取り組みたいと考えているので、このような情報があれば共有するようお願いしたい。

(3) たかつき中通り本通り商店街振興会

最近、客引きが増えている。本通りの寿司店がある四つ角は特にひどく、先日は居酒屋チェーンの部長がやって来て、商店街で対応できないかと相談された。客引きをどこまで認めるのか、安心して回遊できるまちづくりのために法やルールなどのソフト面を整備していく時期ではないか。協議会で研究して知恵を貸してほしい。

阪急高槻南駅前通り商業振興会

当商店街からも同様の声が挙がっている。城北通商店街や自治会と連名で市に要望書を提出したところ、市からは「大阪府の規制条例の対象に含まれている」という趣旨の回答だった。相模原市や厚木市、大阪市や京都市は既に客引き防止条例を制定し

ている。高槻市も危機管理室に規制するよう行ってほしい。

(4) 阪急高槻南駅前通り商業振興会

別件ではあるが、駅周辺は車が減ってきているが早朝から人通りが多い。城北通や高槻町、京阪バスの通りは歩行者専用にし、京阪バスが通る新しい道路を整備すべきと以前から提言している。阪急南側の三角地帯を駅前広場とする計画も昭和40年ごろに策定されているが動いていない。そろそろ本気で取り組んではどうか。

また、「オープンたかつき」には集合場所から目的地までかなりの距離を歩くプログラムがある。高齢者や足腰の弱い人も参加するのだから、目的地近くまで送迎できるバスを出した方が良くはないか。

(5) 高槻市ボランティア・市民活動センター

6月の震災以後、災害ボランティアセンターを運営していたが、7月に西日本の豪雨が起きるとすぐにボランティアがいなくなってしまった。防災や減災によって生まれる経済効果もあるので、そのような目線を取り入れた計画の見直しを検討してほしい。

(6) 公益社団法人高槻市観光協会

先ほど意見のあった「オープンたかつき」のプログラムでのバス送迎については、現状では旅行業法が規定する資格が観光協会にないため取り扱うことが出来ない。早急に取得して改善していきたいとは考えている。

7 閉 会

(1) 副会長挨拶

高槻市中心市街地活性化協議会 副会長 木ノ山雅章 氏